圧縮性の流れと Transversal field.

東工大 応物 久保 泉

§ 1. 序

ya. G. Sinai [1] は古典力夢系の flow (automorphism) の研究にtransversal field の概念が有効なことを示した。同じ論文の&7 において、その考え方のある部分は一般のLebedgue 空間の automorphism の研究に適用出来ることを指摘し、可測変換の一径数群 {Zu} が admissible という条件を入れ、それが一次元の transversal field (Tの)であることを定義して、Tと {Zu} の 関係を調べている。 その方法を考察してみれば本質的な気は、 [Zu} が測度の絶対連続性は保っているが、保測でなくてよい可測変換の一径数群であることと、 {TZuT¹}が {Zu}の time change になっていることの二溴であることがわかる。 この二点を基礎として &inai の 議論を構成しなおしてみることがこの報告の一つの目的である。

乙が可測ファイバー構造であることから

 $Z_u: x \longrightarrow Z_ux$ はM上の 測度を絶対連続に保つ可測更換の一径数群であることが容易にわかる。 $\hat{Z}_ux = TZuTx$ と $\{\hat{Z}_u\}$ を定義すれば、 $\{\hat{Z}_u\}$ も又測度を絶対連続に保つ可測 変換の一径数群であり、 Z_uTx の Z_uTx であることがら $x \in \Gamma$ ならば、 $\hat{Z}_ux \in \Gamma$ Z_uTx 即ち、 $\{Z_ux\}$ は同じ軌道 Γ でなり、このことは、 $\{\hat{Z}_u\}$ が $\{Z_ux\}$ の time change であることを

 $\hat{\mathcal{D}}_{u} \mathcal{X} = \mathcal{Z}_{\mathcal{T}(u, \chi)} \mathcal{X}. \quad \tilde{\mathcal{T}} \delta \delta \tilde{m}, \quad \tilde{\mathcal{T}} \delta \tau (u, \chi) \delta \tilde{m},$ $T(\Delta_{i} + \Delta_{2}, \chi) = T(\Delta_{i}, \chi) + T(\Delta_{2}, \hat{\mathcal{D}}_{\Delta_{i}} \chi)$

指唆する。 即ち,ョて(u.z),

fieldであることにより、存在する。このことは、{ huy が { Zu} の 入(x)による time changeであることを意味している。

82. 圧縮性の流ル.

定義 2.1. (Ω, B, P) をある Lebesgue 空間とするとき、 Ω 上の可測変換の一径教群 $\{Z_t\}$ が 圧縮性の流れとは、次の二条件を充すときにいり。

- (i) $(t, \omega) \longrightarrow Z_t \omega$ が $(-\infty, \infty) \times \Omega$ から Ω への 可測 写像.
 - (ii) 仕意 の tに対して、 $P(A) = 0 \Leftrightarrow P(Z_t A) = 0$.

次に圧縮性の流れ{Zt}に対し flowの special flowによる表現と類似の表現を考える。

定義 Z.Z. 圧縮性の流れ $\{Z_t\}$ がS-表現をなつとは、Case 1. Lebesgue 空間(X, A, μ)とその上の可測函数 f(x)(>0)が存在して、 $\Omega = \{(x,u), 0 \le u < f(x), x \in X\}$ dP(x,u)は $d\mu(x)$ *du と 互に絶対連続であり、 X上の bi-measurable T one-to-one onto な変換 T が 存在して $P(A) = 0 \Leftrightarrow P(SA) = 0$,且,次の式を記すときにいう。 (2.1) $Z_t(x,u) = (S^n x, t + u - \sum_{i=0}^{n-1} f(S^i x))$ $for f(S^n x) > t + u \sum_{i=0}^{n-1} f(S^i x) \ge 0$

= $(\bar{S}^n, t+u+\sum_{j=1}^n f(\bar{S}^jx))$ for $0>t+u+\sum_{j=1}^{n-1} f(\bar{S}^jx) \ge -f(\bar{S}^nx)$

Case 2. $Case 1 の type の Lebesgue 空向 (<math>\Omega_1$, B_1 , P_1) ν 圧縮性の流れ $\{Z_t^i\}$ が存在し、 Ω から Ω_1 への同型写像 (mod 0) T が存在して $TZ_tT'=Z_t'$ を充すときにいう。

実は、このS-表現を考えることが局所可測ファイバー構造を考えることに対応しており、このSの目的は、S-表現の存在を証明することである。 その準備としてやさしい Lemma を示しておく。

Lemma 2.1. $\{Z_t\}$ を圧縮性の流れとするとき、 任意の有界可測函数 $\mathcal{S}(\omega)$ に対して

(2,2)
$$\lim_{\alpha \to 0} \frac{1}{\alpha} \int_{0}^{\alpha} f(Z_{t} w) dt = f(w) \quad \text{a.e.}$$

(証明) g(u, w) = f(Zuw) とおけば、<math>g(u, w)は $(-\infty, \infty)$ × \times Ω 上の有界可測函数である。 従,てほとんど全ての W に対し g(u, w) は u の函数として,有界可測, J , T

(2.4)
$$\lim_{\alpha \to 0} \frac{1}{\alpha} \int_0^{\alpha} g(u+t, \omega) dt = g(u, \omega)$$
 a.e. u , a.e. ω .

g(u.w)の可測性から Fubiniの定理を使って れ。 No C SQ.P(Vo)=0 $\lim_{\alpha \to 0} \frac{1}{\alpha} \int_{0}^{\alpha} f(Z_{t} Z_{u_{0}} \omega) dt = f(Z_{u_{0}} \omega) \qquad \omega \in \mathcal{N}_{o}$ Zu。が 絶対連続性を保つ可測変換だから P(zzu。N。)=0. $\lim_{n \to \infty} \frac{1}{a} \int_{0}^{a} f(z_{t} w) dt = f(w)$ *ω ∈ N= Z-u₀N₀*.

以上で Lemma 2.1.が示された。次に Lemma 2.2.を示す。 $|f_a(Z+w)-f_a(Z_{\Delta}w)|=\frac{1}{|a|}|\int_{a+\Delta}^{a+t}f(Z_{u}w)du-\int_{A}^{t}f(Z_{u}w)du|\leq \frac{2k}{|a|}|t-\Delta|$

Lemma. 2.3. {Zt}を不動臭をもにぬ圧縮性の流れと すれば、{ひょ は S-表現を とつ。

(言E明) flowの special flow による 表現定理に準ずる。 [3]を参照して以下の証明の機略を補って頂きたい。

1° 不動矣の不存在から、3B ∈ B, 3to, P(B, ZtoB)>0. Lemma 2. 1. 125). $\psi_a = \frac{1}{a} \int_0^a \chi_B(Z_t \omega) dt \longrightarrow \chi_B(\omega)$ a.e. 従って a>0 が存在して、 $B_1=\{\omega; 4_a(\omega)<\frac{1}{4}\}$ $B_2=$ = $\{\omega ; \psi_a(\omega) > \frac{3}{4}\}$ is. $P(B_i \circ B^c) < \frac{1}{2}P(B^c \cap Z_{t_0}B)$ P(ZtoBz ⊖ ZtoB) < = P(B nZtoB) を充す。 そのよう なaを固定しておけば P(Bin ZtoB2)>0, 又Lemma 2. 2, N'S 14a (Ztw) - 4a (Zsw) | 5 21t-1 Th 3.

とおけば、 $f(\omega)$ 、 $g(\omega)$ は共に可測であって、 $g(Z_t\omega)=\overline{g}(\omega)-t$

2°. P(Q1) > 0 の場合。 [3] 71 p と同様だから簡単 に描写する。 $\Omega_{i}^{*} = \Omega_{i,n}\{\omega; \mathcal{H}_{\alpha}(\omega) = 2, \mathcal{H}_{\alpha}(\mathcal{Z}_{t}\omega) > 2, ort(\frac{\alpha}{A})$ とおくとき $\omega^* \in \Omega_i^*$ に対し、 $f(\omega^*) = \inf\{t > 0, Z_t \omega^* \in \Omega_i^*\}$, Sw* = Zf(w*, w* と定義すると、Quit{Zt}の軌道の有限線分 $\{Z_t \omega^*; o \leq t < f(\omega^*)\}$ に分割される。 $\overline{\Omega}_i = \{(\omega^*, u)\}$ 0≤u < 5(w*), w* ∈ Q1 } と Q1 と の 自然 ひ 対 応 H を $H(\omega^*, \mathcal{U}) = Z_{\mathcal{U}} \omega^*$ で与え、 P_{\cdot} 12t}を日で豆、上にうつした ものを $Z.\overline{P}$, $+\overline{Z}_t$ } とおけば、 $\{\overline{Z}_t\}$ は $f(\omega^*)$ とらできって (2.1) の型をしている。 Ω_1 の縦線への分割が可測なこ とと f(w*) が可測なことは、 Cw*={(w*.ル); 0≤以f(u*)}. dmcw* (ル) = du/f(w*) が [3] p.52の 測度の標準系の条 件(C.1), (C,2)を充すことからわかる。 上のdmc*は flowの場合と異なり 実際の測度の標準系とは異なってい るが、実際の測度の標準系の形は次のLemmaから得られる。

Lemma 2.4. $\Omega = \{(x,u); 0 \le u < f(x), x \in X\}$. において、配の縦線への分割 S は可測、f(x) は Lebesgue 空向 (X,μ) 上の正値可測函数であるとし、 $dP_S(C_S\alpha) = d\mu(x)$ $dP(u|C_S(x)) = P(x,du)$ であり、更に Ω 上の圧縮性の流れ $\{x_i\}$ が (0.1) の型をしているならば、 (0.1) の列をしているならば、 (0.1) の列をしているならば、 (0.1) の

 $(2.5) \qquad P(x, du) = P(x, u) du$

 $(2.6) \qquad \mu(A) = 0 \iff \mu(SA) = 0.$

(証明) $\{Z_t\}$ の 絶対連続性, $P(B)=0 \Leftrightarrow P(Z_tB)=0$, に より 密度函数 $\infty > \alpha_t(\omega) = \alpha_t(x.u) > 0$ a.e. が存在して (2.7) $P(Z_tB) = \int_B \alpha_t(\omega) dP = \int_B \alpha_t(x.u) p(x.du) d\mu(x)$ - 方, $\int_B n(x) = \sum_{j=1}^{n-1} f(s^j x)$ $(n \ge 1)$, = 0 (n = 0), $= -\sum_{j=1}^{n} f(s^j x) (n \le -1)$ とおくと, $P(Z_tB) = \int_{Z_tB} p(x,du) d\mu(x) =$

 $= \sum_{n=-\infty}^{\infty} \int \int_{Z_{t}B_{x}} Z_{t} I(x,u); f(s^{n}x) > u+t-f_{n}(x) \geq 0 \} P(x,du) d\mu(u)$ $= \sum_{n} \int \int_{B_{x}} I(x,u); f(s^{n}x) > u+t-f_{n}(x) \geq 0 \} P(S^{n}x,d(u+t-f_{n}(x))) d\mu(S^{n}x)$ (2.7) 式と合せて

(2.8) $d_t(x,u)p(x,du)d\mu(x) = \sum_n \chi_{\{f(s^n x)>t+u-f_n(x)\geq 0\}} p(s^n x,du+t-f_n(x))d\mu(s^n x)du$ を得る。 $f(x)>t+\mu \geq 0$ なる tに対して (2.8)より

Lemma 23 の証明に足って、 Lemma 2.4. から Ω_1 上では、S - 表現をもっていることがわかった。

3°: $P(\Omega_2)>0$ の場合. $\Omega_2^{(n)}=\{\omega;n+1>\overline{g}(\omega)\geq n\}$ とおけば、 $\{\Omega_2^{(n)}\}$ は Ω_2 の可測な可算分割. $\Omega_2^{(n)}=\{\omega\}$; $\overline{g}(\omega^*)=n\}$ とおくと $Z_1\Omega_2^{*(n)}=\Omega_2^{*(n-1)}$ どある。 今 $\Omega_2^*=\sum_{n=-\infty}^\infty\Omega_2^{*(n)}$, $f(\omega^*)=1$ $\omega^*\in\Omega_2^*$, $S\omega^*=Z_1\omega^*$ $\omega^*\in\Omega_2^*$ と定義すれば、 $\overline{\Omega}_2=\Omega_2^*\times [0,1)$ と Ω_2 の自然な対応

 $H(\omega^*, \mathcal{U}) = \Sigma_{\mathcal{U}}\omega^*$. $\omega^* \in \Omega_2^*$ $\sigma \leq \mathcal{U} \leq I$ により, $P = I_{\mathcal{U}}$ を Ω_2 上へうっした $P = P(H^{\P})$, $I_{\mathcal{U}} = I_{\mathcal{U}}$ カ $I_{\mathcal{U}} = I_{\mathcal{U}}$ か $I_{\mathcal{U}} = I_{\mathcal{U}}$ の $I_{\mathcal{U}} = I$

4°. Ω_3 におりては、 $\Omega_3^{(n)} = \{\omega; n+1> 2(\omega) \ge n\}_{n} \Omega_3$ につりて 3° と同様に考えればより。

5° Q4 に対しては、風に対して行ったのと同様の議論

1°)~.4°) を繰返す この 1°)~5°)の過程は可算回で記ろし、S-表現を得る。

§ 3. automorphism of Transversal field.

定義 3.1. $\{Z_t\}$ を圧縮性の流れとするとき、 $(-\infty,\infty)$ × Ω 上の可測函数 $g(t,\omega)$ が additive functional とは (A.1) $g(t,\omega)$ は全てのもに対して存限値.

(A.2) f(t,ω) は tに関し連続非減少

 $(A.3) \quad \mathcal{G}(t+\Delta, \omega) = \mathcal{G}(\Delta, \omega) + \mathcal{G}(t, Z_{\Delta}\omega)$

(A,5) y(0,w)=0. $\lim_{t\to t\infty} y(t,w)=\pm\infty$. を記すときにいう。

仮定1. additive functional Y(t,w)に対し, 可積分函数 入(w) > 0 が 存在して.

(3.1) $\mathcal{G}(t, \omega) = \int_0^t \mathcal{X}(\Sigma_s \omega) ds$

定義 $3.2.\{Z_t\}$ の additive functional $\{Y(t,\omega)\}$ に 3 time change $\{\widetilde{Z}_t\}$ とは, $T(t,\omega)$ = $\sup\{A, Y(A,\omega)\}$ で ξ つって, \widetilde{Z}_t ω = $Y_{T(t,\omega)}$ ω として定義される可測 Y な Y 変換の一径数群をいう。

定義 3.3. TE Lebesgue 空间 Ω の α utomorphism {Zt} を圧縮性の流れとするとき、 $\{Z_t\}$ が下の transversal field χ は、仮定1 を充す $\{Z_t\}$ の additive functional $g(t,\omega)=\int_{0}^{t} \chi(Z_{\Delta}\omega)d\lambda$ が存在して、 $\{g(t,\omega)\}$ による $\{Z_t\}$ の time change $\{\hat{Z}_t\}$ か

(3.2) T $Z_t T^{-1} \omega = \hat{Z}_t \omega$ を名すときに少り。 又,

 $\lambda(\omega) > 1$ ($\lambda(\omega) < 1$) のときしていき 拡大(縮少)する transversal field, $\lambda(\omega) \ge \lambda_0 > 1$ ($\lambda(\omega) \le \lambda_0 < 1$) のとき transversal field, $\lambda(\omega) \ge \lambda_0 > 1$ ($\lambda(\omega) \le \lambda_0 < 1$) のとき transversal field と呼び $\lambda(\omega) \ge 1$ を持続数と呼ぶことにする。

定理 1. Té automorphism, $\{Z_t\}$ をその拡大 $\forall S$ 縮少する Transversal field S_t の まま S_t の ergo dic part S_t の可測分割, S_t を S_t の 軌道への分割の可測被覆とす れば、

(3,3) $\xi < \nu_z$

系 1. TE automorphism, 1241a を縮少又は拡大しているtransversal field の族とすれば、

$$(3.3)'$$
 $\xi < \chi \chi^{\alpha}$

定義 3.4. 圧縮性の流れ $\{Z_t\}$ にないて、 $\{Z_t\}$ - 不変な可測集合 $\{Z_t\}$ を metrically transitive という。 この条件は、 $\{Z_t\}$ が tribial か分割れであることと一致する。

系2. automorphism Tか" 拡大又は縮少する metrically transitive so transversal field をもては", Tisergodic.

(定理1の証明) {Zt}を拡大している transversal field 2 (5). Lemma 2.2 1554 | f(Z+w)-f(Z_w)| = K|t-A| も充す f(w) は L'(RL)で denseである。 このもうひ f(w)に 対して、 $f_+(w) \equiv \lim_{n \to \infty} \frac{1}{n} \int_{\mathbb{R}^n} f(T^k \omega)$ が ほとんどりたると ころ存在して B(ンz) - 可測である。 何故ならば、てn(t,w) $= \int_{0}^{t} \frac{1}{\lambda(TZ_{\Delta}\omega) \cdot \lambda(T^{n}Z_{\Delta}\omega)} d\lambda \quad \forall \ \exists \ \exists \ \lambda(\omega) > 1 \quad \forall \ \forall \ \exists$ $\lim_{n\to\infty} \left[\chi(\omega) - \chi(\tau^{n-1}\omega) \right]^{-\frac{1}{n}} = \exp\left\{ E\left[\log \chi(\omega) \right] \right\} > 1 \quad \text{a.e.}$ が成立することから $\lim_{n\to\infty} T^n(t,\omega) = 0$ a.e. を得て, $|f(T^nZ_t\omega)-f(T^n\omega)|=|f(Z_{T^n(t,\omega)}T^n\omega)-f(T^n\omega)|$ $\leq K/T^n(t,w)/\longrightarrow 0$ a.e. $(n\to \alpha)$ に注意すれ 11), $\overline{S}_{+}(Z_{t}\omega) = \lim_{n \to \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^{n} f(T^{k}Z_{t}\omega) = \lim_{n \to \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^{n} f(T^{k}\omega) = \overline{f}_{+}(\omega) \text{ a.e.}$ が成立することによる。 以上のことから アー不変 可測集合 はしれー不変となり、多くソセを意味する。

定理 2. エルゴード的な automorphism T が strict に拡大している transversal field {Zt}を持てば {Zt} の軌道の線分への可測分割らが存在して

- i) TS>S
- ii) $V T^k S = \varepsilon$
- iii) $\Lambda T^k \zeta = \mathcal{V}_Z$
- iv) $H(TS1S) = E\{log \lambda(w)\}$.

系 更に {Zt} が metrically transitive ならば、 (T, 5) はK-system である。

(証明) Sinai [1] 起理 5.1. と同様に出来る。S-表現を考え, $V = A \times [0.12a] \subset \Omega$, $\lambda(w) \ge \lambda$ 。> 1. $w \in V$, $\lambda(V) > 0$ となるか λ , λ を定める (定理の条件をゆるめて、"strict" の (に上の如き V の存在を仮定す λ げかい。 λ 、 λ

含されるように出来る。 $V_i = B \times (b_i, b_i)$ とおいて 以後は [1]の定理 5.1 の証明をたどればない。 (証明終)

Proposition 3.1. Tを automorphism, $\{z_t\}$ を その transversal field で 伸張係数は $\lambda(\omega)$ とするとき, 正値函数 $\mu(\omega)$ による $\{z_t\}$ の time change $\{\widetilde{Z}_t\}$ は、再び Tの transversal field であり、その伸張係数允(ω)は、

(3,4) $\widetilde{\chi}(w) = \chi(w) \mu(T^{\prime}\omega)/\mu(\omega)$

(言E明) $\psi(t,\omega) = \int_{0}^{t} \mu(Z_{A}\omega) dA$, $\sigma(t,\omega) \in \psi(t,\omega)$ の 连函数としるう。 $\widehat{Z}_{t} = Z_{\sigma(t,\omega)} \omega$ だから, $T\widehat{Z}_{t}T'\omega = TZ_{\sigma(t,T'\omega)}T''\omega = Z_{\tau(\sigma(t,T'\omega),\omega)}\omega = \widetilde{Z}_{\psi(\tau(\sigma(t,T'\omega),\omega),\omega)}\omega$ が放立する ことから明らか。 (証明終)

Proposition 3.2. Tを automorphism, $\{Z_t\}$ を その transversal field で 伸張係数は $\chi(\omega)$ とし更に、 $\{Z_t\}$ は 絶対連続で有限の確率測度 Q をもつとしよう。 即ち、 $P\sim Q$ 、 $Q(Z_tA)=Q(A)$ やt、 $PA\in B$ を充すとすれば、次のことが成立する。

(i) $g(\omega) = \frac{dQ}{dP}$ とおけば、 任意のもに対し $K(\omega) \equiv \lambda(\omega) g(T'\omega)/g(\omega) = \lambda(TZ_tT'\omega)g(Z_tT'\omega)/g(TZ_tT'\omega)$ ii) {Zt}の entropy は

§ 4 Flow or transversal field.

定義 4.1. 圧縮性の流れ{ Z_{a} }が可測なflow{ T_{t} }の transversal field であるとは、{ Z_{a} }の additive functional (t を固定は)の系 $g(A,t,\omega)$ が存在して、{ T_{t} $Z_{A}T_{t}$ }が { Z_{a} }の $g(A,t,\omega)$ による time change であり $g(A,t,\omega)$ は $(-\infty,\infty)\times(-\infty,\infty)\times\Omega$ → $(-\infty,\infty)$ への可測写像であって

(4,1) $\mathcal{G}(\Delta,t_1+t_2,\omega)=\mathcal{G}(\mathcal{G}(\Delta,t_1,\omega),t_2,T_{-t_2}\omega)$ を充すきのとする。

定義 4.2. $\{Z_{s}\}$ を $\{T_{t}\}$ の transversal field とするとき, 可測函数 $\chi(\omega)$ が存在して, $(4,2) \quad \chi(t,\omega) = \exp\left[\int_{-t}^{u} \chi(T_{u}\omega) du\right]$

(4,3) $y(s,t,w) = \int_{0}^{A} \lambda(t,z_{r}w)dr$ と表わされ

 $\alpha(\omega)>0$ (<0) のとき、 $\{Z_t\}$ は拡大(縮少)するといい、 $\alpha(\omega) \ge \alpha_0 > 0$ ($\alpha(\omega) \le \alpha_0 < 0$) のとき $\{Z_t\}$ は、 $\alpha(\omega) \ge \alpha(\omega) \ge \alpha(\omega) \le \alpha(\omega)$ ないか、 は、 $\alpha(\omega) \ge \alpha(\omega) \ge \alpha(\omega)$ ないか。

定理 3. {Zs}を flow {Tt}の拡大又は縮少する transversal field, をを{Tt}の ergodic part への可測分割とすれば、

(4.4) $\xi < \mathcal{V}_Z$

(証明) 定理1の証明と同様に、 $|f(Z_{A_1}\omega)-f(Z_{A_2}\omega)| \leq K|A_1-A_1|$ なる有界可測函数 $f(\omega)$ に対して、 $f_{+}(\omega)=\lim_{N\to\infty}\int_{N}^{N}f(T_{+}\omega)dt$ は、始んどをての ω に対して存在し、 (4,1) から $T(A,t,F_{+}\omega)=g(A,-t,\omega)$ を得ることに注意すれば、始んど全ての ω に対し $|f(T_{t}Z_{A}\omega)-f(T_{t}\omega)|=|f(Z_{g(A,-t,\omega)}T_{t}\omega)-f(T_{t}\omega)|$ $\leq K|g(A,-t,\omega)|\longrightarrow 0$ が成立することが ら、 $f_{+}(\omega)=f_{+}(Z_{A}\omega)$ が、 $f_{-}(Z_{A}\omega)$ にmma 2.1,2.2 が、 $f_{-}(A,-t,\omega)$ を得る。

定理 4. {Tt}を可測なflow,{Zs}をその拡大している transversal fieldで strict に拡大しているならば

可測分割 ろが存在して

- ii) Tt5>5
- (ii) $VT_{t} = \varepsilon$
- (iii) $\Lambda T_t S = V_Z$
- (iv) $H(T_t S | S) = -H \int d(\omega) dP$

定理5、{Zs}をflow IT+}のmetrically transitive で, 不要測度Qをもつ transversal field とずれば、定数 K>Oが存在して、

- (i) $K^{t} = \int \chi(t, \omega) dQ$
- (ii) log K = S & (w) dP
- (iii) $R\{Z_H\} = 0$ or ∞ , X = 1.

8 5. 例

1°. 一般化UたパイコネとBernoulli automorphism $\Omega = \{(x,y): 0 \le x,y < 1\}$, $dP = dx \cdot dy \times U$. $P_j (J=1,...,N)$ を $0 < P_j \stackrel{Y}{\underset{j=1}{\sum}} P_j = 1$ なる数とて $\Omega = \{(x,y): 0 < P_j \stackrel{Y}{\underset{j=1}{\sum}} P_j = 1\}$ なる数とて $\Omega = \{(x,y): (x,y): (x,y):$

と定義すれば、これは $mod \ O$ で Bernoulli automorphism Y is in it in in it i

このとき、定理2の分割3は、具体的に、Ωの機線への分割 として与えられ、 f(T)= f(TSIS)= F[λ(x,y)]=-Žipklogpk

は良く知られている。

更に、 $p_1 = \cdots = p_N = \frac{1}{N}$ の時、 $1Z_t$ は flow であって、 その Apectre は、N-進小数全体のなす discrete 体であり flow たっとも、 $M = p^m$ $m=1.2,\cdots$ のとき、 対応する automorphism T_m は同じ Apectre type の transversal flow をもつ。 このような事実は、この報 告. 小知田氏の項と比較して興味深い。 (実は T_m は T_m と同型)

又,上の場合以外は、12分は不変測度をもたなり。

2° 二次元Brown 運動の flow o transversal field.

 $X_{\lambda}^{(j)}(x,\omega) = \sqrt{\frac{\log \lambda}{2}} \lambda^{-\frac{N}{2}} \int_{a}^{x} \lambda^{\frac{M}{2}} dB^{(j)}(u,\omega)$ $j=1,2, \quad \lambda>1$ と定義すれば、 求めるものが得られる。 更にこれから、 別の 一次元 Brown 運動 $B_{\lambda}(y,\omega)$ を

$$B_{\lambda}(y, \omega) = \begin{cases} y^{\frac{1}{2}} X_{\lambda}^{(1)} \left(\frac{\log y}{\log \lambda}, \omega \right) & y > 0 \\ (-y)^{\frac{1}{2}} X_{\lambda}^{(2)} \left(\frac{\log (-y)}{\log \lambda}, \omega \right) & y < 0 \end{cases}$$

$$0 \qquad y = 0$$

で定義する。 これが一次元 Brown 運動であることは容易に確られ、又良く知られている。 この Brown 運動の afift の flow を {Za}とすると.

 $(5,2) \qquad T_t Z_{\Delta} T_{-t} = Z_{\lambda^{-t} \Delta}$

を得て、 $\{Z_{A}\}$ は $\{T_{t}\}$ の伸張係数 λ をもっ Transversal flow であることがわかる。 この例は定理5 で示した $f\{Z_{A}\} = \infty$ の場合の例を与えている。 (5.2) の証明は. 例之ば、y>0, A>0 のときには、

 $B(y,T_{t}Z_{\Delta}T_{-t}\omega) = y^{\frac{1}{2}}X_{\lambda}^{(1)}(\frac{\log y}{\log \lambda} + t, Z_{\Delta}T_{+}\omega) = \bar{\lambda}^{\frac{1}{2}}LB$ $(\lambda^{+t}y + \Delta, T_{-t}\omega) - B_{\lambda}(\Delta, T_{-t}\omega)] = B_{\lambda}(y + \bar{\lambda}^{t}s.\omega) - B_{\lambda}(\bar{\lambda}^{-t}s.\omega) =$

= Ba(y, Zxtow), により示される。

上の例を、S' 上の Gaussian whitenouse の空南で言えば T_{ϵ}^{*} ; $\mathcal{G} \longrightarrow \mathcal{T}^{\frac{1}{2}}\mathcal{G}(\mathcal{X}^{t_{Z}})$; $\mathcal{G} \in \mathcal{S}$, T_{ϵ} は T_{ϵ}^{*} の dual Z_{ϵ}^{*} ; $\mathcal{G} \longrightarrow \mathcal{G}(x-a)$; $\mathcal{G} \in \mathcal{S}$, Z_{s} は Z_{s}^{*} の dual とおけば、 T_{ϵ} 1、 T_{ϵ} 1、 T_{ϵ} 3 は S' 上の flow であって

 $T_{t}^{*} Z_{\Delta}^{*} T_{t}^{*-1} \mathcal{J}(x) = \lambda^{-\frac{t}{2}} (Z_{\Delta}^{*} T_{t}^{*-1} \mathcal{J})(\lambda^{-t} x) = \lambda^{-\frac{t}{2}} T_{t}^{*} \mathcal{J}(\lambda^{-t} x - \Delta)$ $= \mathcal{J}(x - \lambda^{t} \Delta) = Z_{\lambda^{t} \Delta}^{*} \mathcal{J}(x)$

なことから $7 \epsilon Z_{\Delta} T_{+}^{-1} = Z_{\Lambda}^{-t} s$ を充す、ことに対応している。

文 南艾

[1] Я. Г. Синай: Классические финамические системн со счетнократным лебеговским спектром.

I. Известия. Акад. Наук. СССР Серия Мат го (1966)

[2] H. Totoki; Time changes of flows. Memoirs. Fac. Sci. Kyushu. Univ. 20. No.1. (1966)

[3] 十時 東生; Flow とエントロピー, Sem. on Prob.